

氏名	長谷 聡 一 郎
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 4664 号
学位授与の日付	平成 24 年 12 月 31 日
学位授与の要件	医歯学総合研究科病態制御科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)
学位論文題目	Endometrial Polyps: MR Imaging Features (子宮内膜ポリープのMRI画像の特徴)
論文審査委員	教授 平松 祐司 教授 柳井 広之 准教授 徳永 浩司

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

本研究の目的は子宮内膜ポリープのMRIの特徴と有用性を評価することである。病理組織学的に子宮内膜ポリープと証明された40症例の病変の大きさ、形態、辺縁や内部の性状、信号強度、造影効果を後方視的に解析した。

患者年齢は平均43.9歳。MRI撮像から外科手術までの期間は平均66.9日であった。MRIにおける病変の最大短径は平均14mm大。形状は腫瘤状が26例(65%)、内膜肥厚が14例(35%)、辺縁は境界明瞭が28例(70%)、境界不明瞭12例(30%)であった。内部性状を反映した特徴的MRI所見の頻度は線維性間質30例(75%)、小嚢胞構造22例(55%)、出血14例(35%)であった。これらを除いた部分の内部信号強度はT2強調像で等-低信号36例(90%)、拡散強調画像で低信号32例(80%)、造影T1強調像で中等度-強い濃染28例(70%)であった。全体あるいは部分的な早期濃染は32例(80%)で認めた。ダイナミックスタディでは早期濃染・後期濃染持続17例(42.5%)、緩徐濃染17例(42.5%)であった。子宮内膜ポリープにおけるこれらのMRI所見の特徴は他の内膜由来の疾患との鑑別に有用である。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、子宮内膜ポリープのMRIによる診断について研究したものである。

子宮内膜病変には、子宮内膜ポリープのほか、子宮内膜癌、子宮内膜間質肉腫、粘膜下筋腫、胎盤ポリープなど様々なものがあり、子宮内膜は性周期において変化するためその診断は通常の経膈超音波、内膜細胞診では困難なこともある。

今回、MRI検査のT2強調像、脂肪抑制T1強調像、拡散強調像、ダイナミック画像、脂肪抑制T1強調像を用い、その所見を組織型と対比しMRI検査の有用性を検討している。

そして、子宮内膜病変のMRI内部信号強度が、T2強調像で等-低信号、拡散強調画像で低信号、造影T1強調像で中等度から濃染、ダイナミックスタディでは早期濃染を呈した場合、子宮内膜ポリープを第一に考えるべきであることを明らかにし、臨床上也役立つ重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。